

人工林の恒続林誘導における更新木のニホンジカ食害防止調査（R4～6）

青山祐輔・小島 靖

1. はじめに

奈良県では、森林環境の維持向上のために、混交林誘導整備事業により、手入れの遅れた人工林の恒続林化を進めている。スギ・ヒノキの針葉樹林で群状択伐を行い、広葉樹等の苗木（更新木）を植栽し、混交林へ誘導するにあたり、ニホンジカによる更新木の食害が大きな阻害要因となっている。更新木のニホンジカ防除方法は多数（防護柵、単木保護資材、忌避剤等）存在する。一方、地域によってニホンジカの生息密度が異なり、採食圧の強度（食害の受けやすさ）によって適切な防除方法は異なる。

そこで本調査では、①ニホンジカの採食圧の強度を予測する簡易な判別方法の開発 ②ニホンジカの採食圧に応じた適切な防除方法の検証 ③ニホンジカの採食圧の判別方法とそれに応じた適切な防除方法について技術指針にまとめることを目的とする。令和5年度は整備後事業地におけるニホンジカのカメラトラップ調査を実施した。

2. 材料と方法

5ヶ所の整備後事業地（宇陀市、明日香村、高取町、黒滝村、十津川村）に、自動撮影カメラを3～5台設置し、ニホンジカの撮影頻度指数（RAI）を調べた。自動撮影カメラは更新木の近くに設置し、ニホンジカが更新木および防除資材を食害する様子を撮影できるようにした。

3. 結果と考察

整備前と同じ季節の整備後のニホンジカのRAIを表に示す。整備前後で自動撮影カメラの設置場所に変化はあったものの、4事業地で整備前より整備後でRAIが高かった。整備後のギャップに下層植生や更新木が出現したことがニホンジカのRAIに影響した可能性がある。高取町では整備前調査を実施しなかった。

整備後のニホンジカのRAIの季節変化を図に示す。宇陀市、明日香村、十津川村で春にRAIが高かったのは、下層植生や更新木の新芽を食べに来ていたためと考えられた。

今後は、カメラトラップ調査を継続するとともに、更新木の被害調査と防除資材の効果調査を実施する。

表. 整備前および整備後のニホンジカの撮影頻度指数(RAI)

| 調査地 | 整備前設置期間 | RAI(頭/100カメラ日) | 整備後設置期間 | RAI(頭/100カメラ日) |
|------|-----------|----------------|-----------|----------------|
| 宇陀市 | R3年8～10月 | 9.4 | R5年8～10月 | 16.7 |
| 明日香村 | R3年9～10月 | 10.6 | R4年9～10月 | 19.4 |
| 黒滝村 | R3年10～12月 | 12.1 | R5年10～12月 | 21.3 |
| 十津川村 | R3年8～10月 | 5.2 | R5年8～10月 | 15.2 |

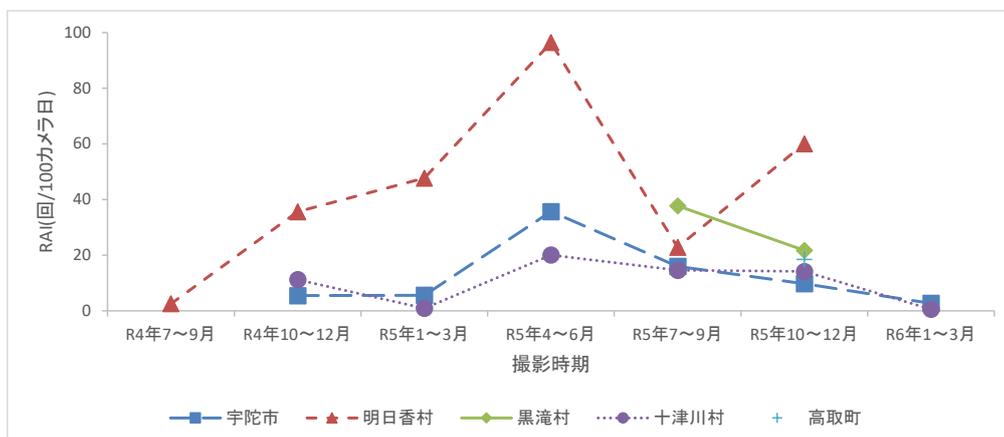


図. 整備後のニホンジカの撮影頻度指数(RAI)の季節変化